

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

2022/11/30
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは11月30日(水) 9:00現在
※休日の実績は前営業日

		11月29日現在 (矢印は10月末比)	12月の予想
USD	ドル・円 (円)	↘ 138.63	↗ 135.00 ~ 145.00
	FRBタカ派スタンス確認で戻りを試す展開		
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↗ 1.033	↘ 0.97 ~ 1.07
	ユーロ・円 (円)	↘ 143.26	↘ 138.00 ~ 148.00
	欧州経済は依然楽観できる状況ではなくユーロ買戻しに一服感		
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↗ 1.195	↘ 1.13 ~ 1.23
	ポンド・円 (円)	↘ 165.74	↘ 160.00 ~ 170.00
	財政信認による買戻しが一巡しファンダメンタルズから下値を探る		
AUD	豪ドル・円 (円)	↘ 92.77	↘ 91.00 ~ 95.00
NZD	NZドル・円 (円)	↘ 85.94	↘ 83.00 ~ 87.50
	豪中銀の利上げ停止方針が示されると金融政策の優位性が薄れる		
株式 相場	日経平均 (円)	↗ 28,028	↘ 26,000 ~ 29,000
	FOMCや中国警戒、円安による支えの後退から下値を探る		
	NYダウ (ドル)	↗ 33,853	↘ 32,000 ~ 35,000
	FOMCや米議会对立が嫌気され下値を探る		
長期 金利	日本 (%)	↗ 0.250	⇒ 0.22 ~ 0.25
	米金利上昇を受け20年債や30年債が上昇しやすい		
	米国 (%)	↘ 3.744	↗ 3.50 ~ 4.20
	FOMCや中間選挙で低下も利上げ減速期待修正で月後半は上昇		

◆ 今月の注目ポイント

米CPIと金融政策スタンスの見極め

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気	◎	【米CPI】12/13に発表される11月CPIは相場の転換点に。前月結果で生じたインフレ鈍化期待が維持されるか内容が注目される。
金融政策	◎	【FOMC】12/13-14のFOMCでは利上げ幅を0.50%に縮小させ、政策金利は4.25-4.50%と予想される。一方で当局者からは利上げ到達点の上振れが示唆されており、ドットチャートの2023年末の政策金利は9月時点の4.625%から上振れるとみられる。パウエル議長も利上げ継続と当面の引締めのスタンスを維持すると予想される。 【日銀金融政策会合】10月の消費者物価指数がコア+3.6%とインフレ高進する中で政策修正観測も高まっており、黒田総裁会見で従来の政策維持姿勢に変化がみられるか注目される。
政治	○	【中国・抗議デモとゼロコロナ政策の動向】コロナ感染者数増加に対して国民の不満も高まる中、景気回復の足かせとなっているコロナ対策をどのようにコントロールするか、グローバル経済への影響が注目される。

◆ アジア通貨見通し

人民元・円	↘ 18.70 ~ 19.70	ルピー・円	↘ 1.63 ~ 1.73
バーツ・円	↘ 3.75 ~ 4.00	ウォン・円	↘ 10.00 ~ 10.70
ルピア・円	↘ 0.85 ~ 0.90		

◆ 今月の重要日程

1日(木) 米	11月ISM製造業	15日(木) 英	BOE金融政策委員会
2日(水) 米	11月雇用統計	15日(木) 欧	ECB理事会<結果発表>
5日(月) 米	11月ISM非製造業	15日(木) 米	11月小売売上高
6日(火) 豪	RBA理事会	20日(火) 日	日銀金融政策決定会合
13日(火) 米	11月CPI	23日(金) 日	11月CPI
14日(水) 米	FOMC<結果発表>	23日(金) 米	11月個人所得・消費支出

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

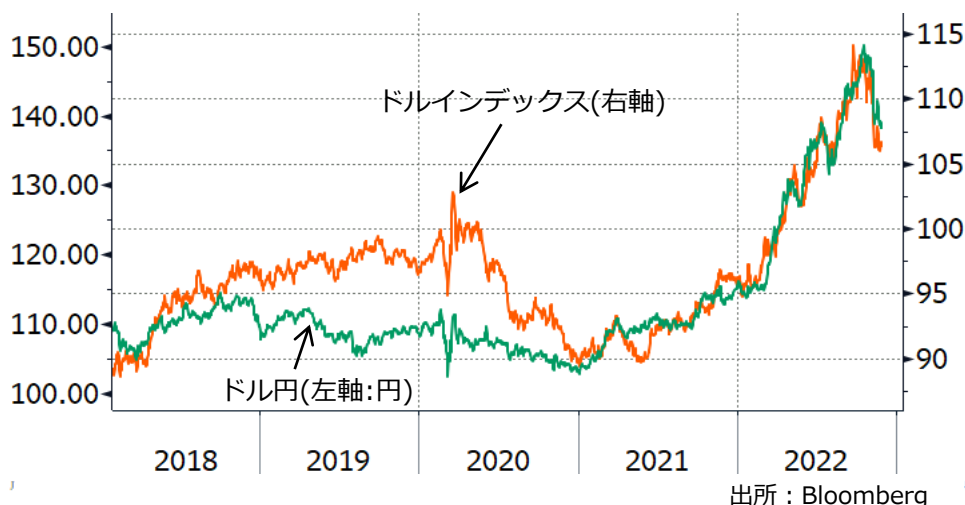
© 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円



ドル円は上昇

135.00 - 145.00円

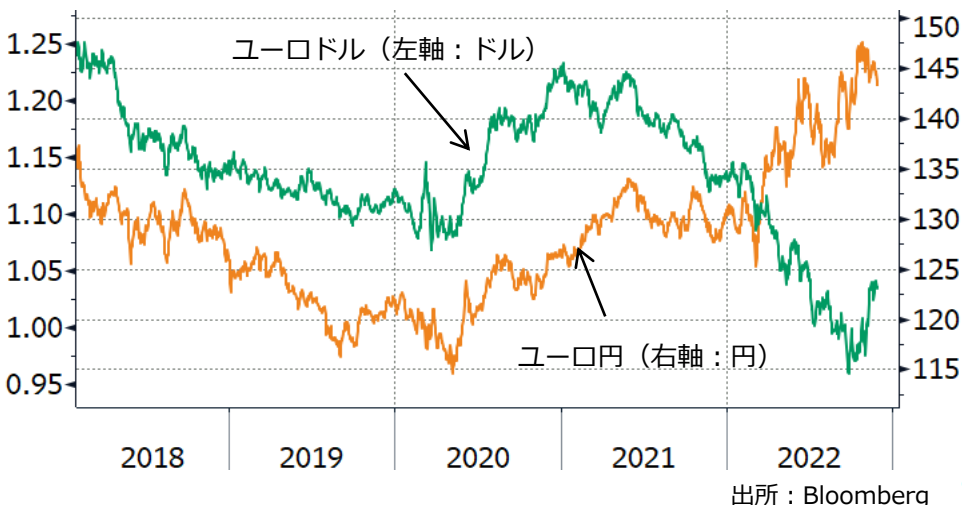
FRBタカ派スタンス確認で戻りを試す展開

11月のドル円相場は10月CPIが市場予想を大幅に下振れたことをきっかけに急落。9月上旬以来となる140円台を割り込んだ。FRB高官によるタカ派コメントを受けた米金利上昇につれて反発する場面も見られたが、米国金利の上昇が一服すると再度下値を探る動きとなった。

12月のドル円相場は戻りを試す展開を予想する。米国経済の先行き不透明感からマーケットは来年末以降の急速な利下げを織り込み、米金利は低下基調にあるが、今月は反転上昇するとみておりドル円も連れて上昇を見込む。11月CPIは依然としてサービス価格上昇が継続するなかで上振れる可能性がある。また、翌日開催されるFOMCではFRBの政策委員の金融政策見通し(ドットチャート)で利上げのピークは引き上げられ、2023年中の利下げを見込んでいないことが示されよう。FRBと市場の見方のギャップは大きく修正が入りやすいとみている。

ただし月末にかけては徐々に上値が重くなるとみる。米国経済指標は総じて弱含むものとなる中、日銀総裁人事が話題となる可能性がある。日本の物価が上振れる中で政策変更の思惑がくすびやすく、円の買戻し圧力につながりやすい。ドル円の上値抑制要因となろう。

ユーロ



ユーロドル



ユーロドルは下落

0.97 - 1.07ドル

ユーロ円



ユーロ円は下落

138.00 - 148.00円

欧州経済は依然として楽観できる状況ではなくユーロ買戻しに一服感

11月のユーロ相場は米国のCPI下振れをきっかけにドル安が加速し、1ユーロ=1ドルのパリティを回復し、戻りを試す展開となった。ECB高官の発言が総じてタカ派であったことや天然ガス供給懸念が一服する中、景況感が総じて持ち直したことも好感された。

12月のユーロ相場は買戻し一巡で下値を探る展開を予想。12月のECB理事会では過去2回の0.75%利上げから利上げ幅を0.50%に減速させると、金融市場では見込まれている。ECB高官の発言は依然としてインフレ警戒が強く、0.75%利上げの可能性は残されているが、天然ガス供給の来年末以降への不透明感は依然として残り、欧州経済の先行きは楽観できる状況ではない。利上げによる景気懸念も踏まえると、0.75%の大幅利上げが必ずしもユーロのサポート材料とはならないであろう。

ユーロ円はドル円の戻り局面で戻りを試す場面も想定されるが、上値は重いものと想定。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

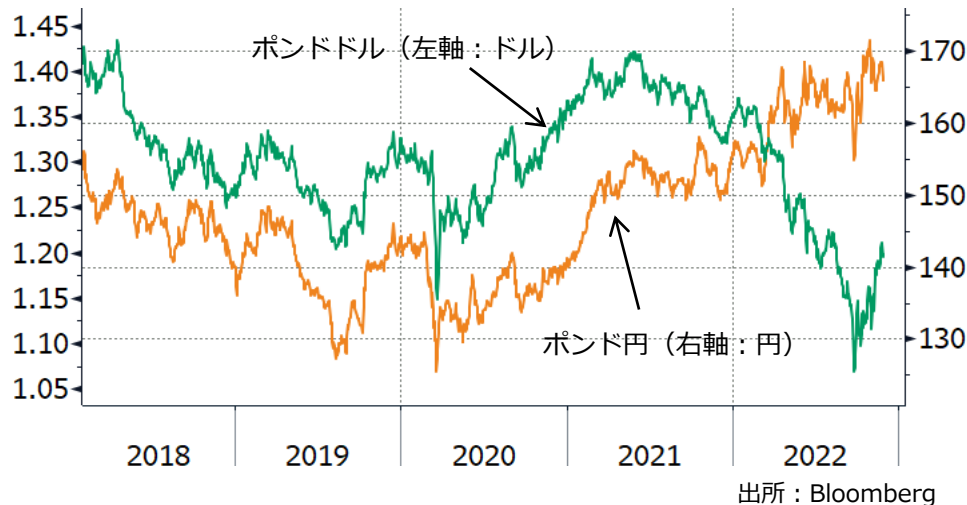
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポンド



ポンドドル



ポンドドルは下落

1.13- 1.23ドル

ポンド円



ポンド円は上昇

160.00 - 170.00円

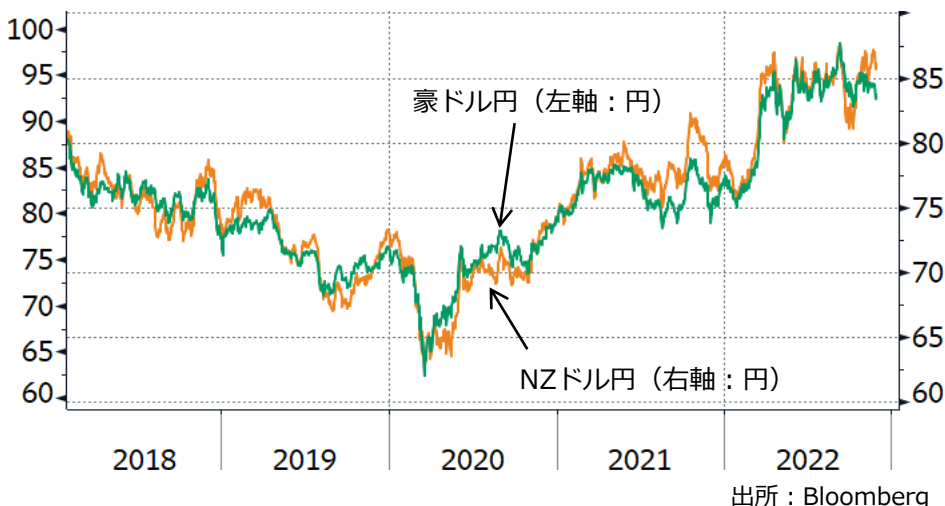
財政信認による買戻しが一巡しファンダメンタルズから下値を探る

11月の英ポンド相場は財務相の交代や減税案撤回等をきっかけに反発した10月以降のマーケットが継続し、戻りを試す展開となった。英ポンドは財政混乱で急落する前の8月中旬以来の水準を回復した。

12月の英ポンド相場は、買戻し一巡で、下値を探る展開を予想する。首相交代による財政への信認回復から、投機筋による英ポンド売りのポジションは買戻し基調となっている。しかし、財政への信認が回復しても、インフレを背景としたファンダメンタルズの弱さが改善されるわけではない。経常赤字体質であることに変化はなく、徐々にポンドの上値が重くなることが予想される。

12月の英中銀会合は11月の0.75%利上げから、0.50%に利上げ幅が縮小されると見込まれている。11月会合ではバiley総裁が「政策金利は金融市場が現在織り込んでいるほど大きく上昇しなくて済むと考えている」とコメントし、大幅な利上げ観測を牽制した。金融政策運営も過度にタカ派な状況ではなく、英ポンドには重石となる。

豪ドル・NZドル



豪ドル円



豪ドル円は下落

91.00 - 95.00円

NZドル円



NZドル円は下落

83.00 - 87.50円

豪ドルは利上げ停止方針が示されると金融政策による優位性が薄れる

11月の豪ドル、NZドルは対円で下落。中国リオープンへの期待や株高によるセンチメントの改善を背景に豪ドルは対円で上昇した場面があったが、世界景気の鈍化に伴うコモディティの下落や豪中銀の利上げ停止段階に近づいている可能性との見方を受け、対円で上値重く推移した。NZ中銀が市場予想に反して大幅な利上げを実施したことを受け、NZドルは対円で下落幅は限られた。

12月の豪ドル、NZドルは対円で下落を予想。中国のリオープン期待が豪ドル、NZドルの支えとなるが、それ以上に世界景気鈍化の鮮明化、インフレの粘着性が重石となる可能性が高い。豪中銀は12月で0.25%利上げを実施した後、利上げ停止を示す可能性が高く、金融政策スタンスによる優位性が薄れる。一方、上振れし続けた日本のCPIへの警戒から円の買い戻しが進む。総じて豪ドル円、NZドル円は下落しやすい地合いだろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

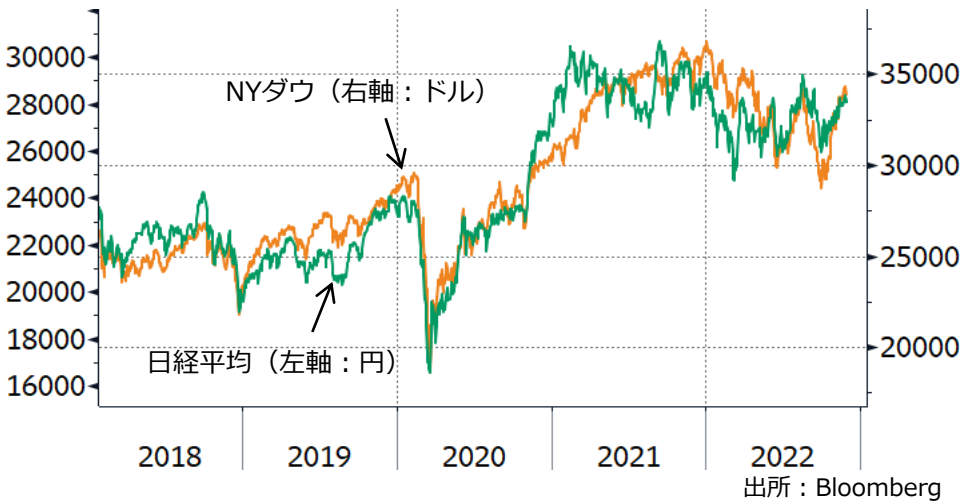
◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均



日経平均は下落

26,000 - 29,000円

FOMCや中国警戒、円安による支えの後退から下値を探る

11月の日本株式市場は、米国株がCPIの落ち着きを背景に総じて堅調であったことやインバウンド期待を背景に底堅く推移した。12月は下値を探る展開を予想。米国FOMCが近く中で、FRBによるタカ派姿勢が警戒されること、一方向の円安による下支えが後退していることが挙げられる。中国がゼロコロナ政策によりファンダメンタルズ、政治面で不安定な状況にあることも日本株には重石となることが予想される。

NYダウ



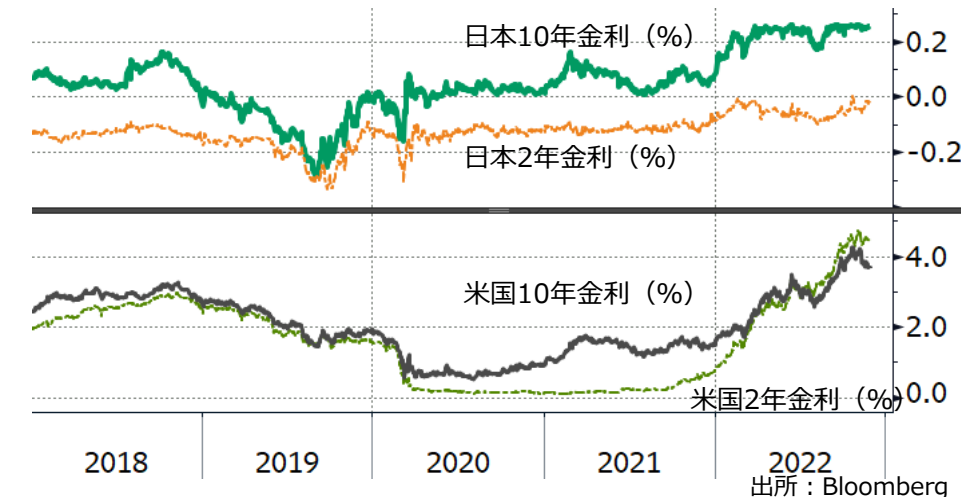
ダウは下落

32,000 - 35,000ドル

FOMC警戒や議会对立が嫌気され下値を探る

11月の米国株式市場は、10月CPIが落ち着いた内容となったこともあり、米国金利の低下を好感し、堅調に推移した。12月は再びFRBの警戒感が高まる中で、下値を探る展開を予想。FOMCを控え、米国金利の低下基調は一服すると見込んでおり、株式市場には重石となろう。米国中間選挙では議会が上院と下院でねじれる結果となっており、財政面での議論の進展は難しい情勢。共和党と民主党の対立が深まればボラティリティが高まりやすく株式市場にネガティブ。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年



金利は横ばい

0.22 - 0.25%

米金利上昇を受け20年債や30年債が上昇しやすい

11月の日本国債相場では、CPIの上振れによる日銀の政策修正警戒もあるなかYCC政策の効かない20年債や30年債の金利が上昇したが、米国金利につれて低下に転じた。12月も10年金利は日銀による無制限買入れオペによりYCCレンジ上限近辺で推移するとみられる一方、20年債や30年債を中心に米国金利との連動性により金利上昇しやすいとみる。

米国債10年



金利は上昇

3.50 - 4.20%

FOMCや中間選挙で低下も利上げ減速期待修正で月後半は上昇

11月の米国債相場は、10月CPIが予想を大幅に下回ったことで金利低下基調となった。12月は金利上昇を予想。既に金融市場では来央以降の急速な利下げを織り込んでおり、金利低下余地は限定的。金融市場とFRBでは利上げ幅の縮小や政策金利のピークについて認識は一致しているものの、先行きの利下げを巡る見方に乖離は大きい。FOMCにかけては、FRBのタカ派スタンスが警戒されやすく、金利低下基調は一服し、金利上昇を見込む。

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		11/28		11月の相場推移		12月の予想	解説
中国	人民元/円	19.40	➡	19.08~20.52	➡	18.70~19.70	コロナ対策の調整による中国リオープンへの期待の高まりやFRB利上げ減速観測を受け、11月のドル人民元は下落した。世界景気減速やFRBのタカ派姿勢でドル人民元は上昇しやすいが、コロナ対策の調整に伴うリオープン期待が引き続き人民元の支えとなる。不動産市場などのへの支援策強化も安心材料。従って12月のドル人民元の上昇ピッチは緩やかなものとなる。
	ドル/人民元	7.141	➡	7.020~7.357	➡	7.10~7.30	
タイ	バーツ/円	3.910	➡	3.846~3.981	➡	3.75~4.00	11月のドルバーツ相場は米国の経済指標や金融政策を受けたドル高巻き戻しの流れで1ドル35バーツ台までレンジを切り下げた。対円相場は1バーツ4円手前までバーツ高進む場面もあったが、その後は円が強含み。総じて対ドルでのバーツ高円高地合いでもみ合いの展開となった。12月のバーツ相場は再びドル高地合いで上昇とみるが上値は限られるとみる。対円でも小幅な下落を予想。
	ドル/バーツ	35.43	➡	35.53~38.05	➡	35.0~37.5	
インドネシア	100ルピア/円	0.881	➡	0.875~0.954	➡	0.85~0.90	コモディティ価格が下落する中、輸出やGDPの下振れもあり、11月はルピア安となった。ルピア安の流れは12月にも続きやすいとみる。11月の会合でインドネシア中銀が利上げのピークが来年の第一四半期になると示し、利上げの材料出尽くし感がルピアの重石となる可能性がある。世界景気減速が鮮明化する中、資源への需要減も輸出の鈍化につながり、ルピアのネガティブ材料となるだろう。
	ドル/ルピア	15,743	➡	15,393~15,750	➡	15,600~15,900	
インド	ルピー/円	1.698	➡	1.684~1.799	➡	1.63~1.73	FRBの利上げ減速期待やインド株への資金流入拡大で11月のルピアは対ドルで上昇。10月のインドのCPIが前月より鈍化するなど冴えない経済指標もあり、インド中銀の利上げ停止期待が高まる。一方、FRBがFOMCではインフレ抑制のために、一段とタカ派メッセージを出す可能性が高い。金融政策較差によりドルルピーは上昇しやすいだろう。
	ドル/ルピー	81.73	➡	80.52~82.93	➡	80.70~82.70	
韓国	100ウォン/円	10.452	➡	10.19~10.78	➡	10.00~10.70	11月のドルウォン相場は約13年ぶりのウォン安水準ながら切り返し1ドル1,300ウォン台前半、月間では約7%の下落となった。今年に入ってからドル高基調の中でウォン相場の下落率は大きく、反動による買い戻しの流れも強まった。一方、米インフレリスクは残存する中で一方向のドル安基調は続かず、今月はウォン安を予想する。ゼロコロナ対応等による中国経済への懸念もマイナス材料となる。
	ドル/ウォン	1,327	➡	1,309~1,429	➡	1,300~1,420	

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

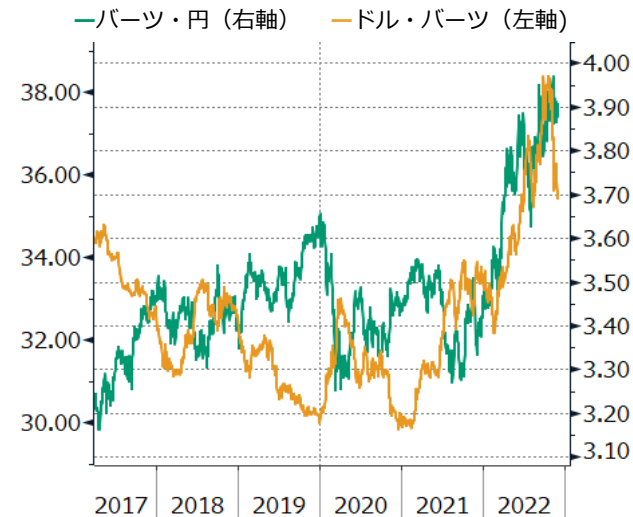
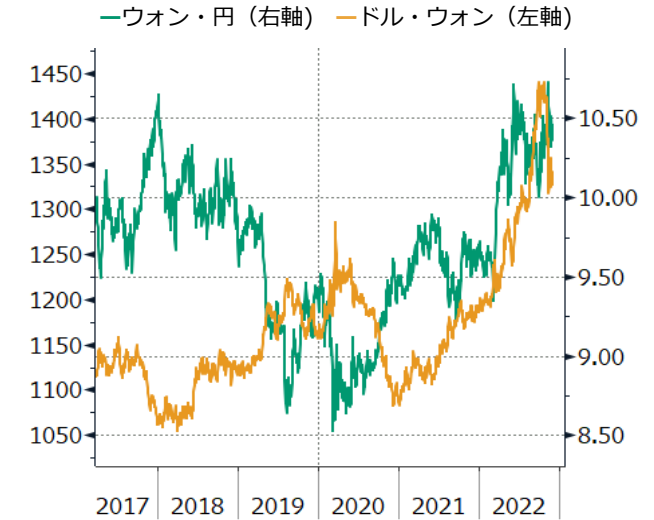
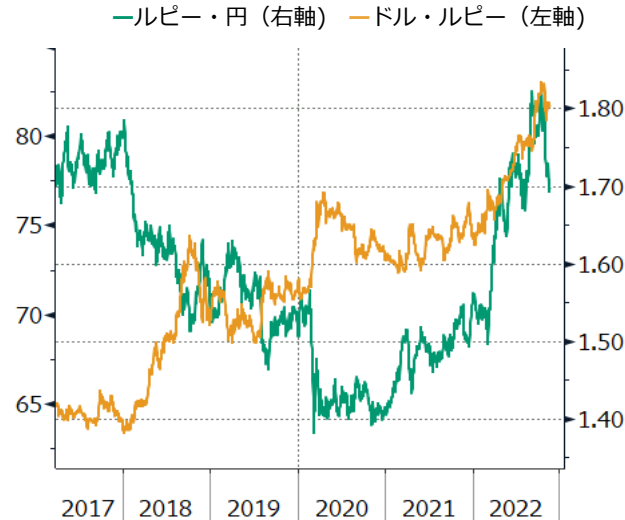
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 新興国通貨チャート



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 年間為替見通し

		2023年				ポイント
		1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	
ドル円	レンジ	120～145	115～145	115～145	115～135	FRBは12月FOMCで利上げ幅を縮小する見込み。年明け以降は日銀の政策修正も意識され徐々に下落。
	期末値	135	130	130	125	
ユーロドル	レンジ	0.95～1.15	0.90～1.10	0.95～1.15	0.95～1.15	欧米ともに年度内は利上げを継続するも、来年4月以降は利下げに向かう。欧州経済はより景気減速懸念が強く、上値は重い。
	期末値	1.05	1.00	1.05	1.05	
ユーロ円	レンジ	120～150	115～150	120～150	120～150	スナク首相の下で混乱した経済や市場の立て直しを図るが、インフレは高止まりしやすく、ファンダメンタルズ面での不安要素は残る。当面上値の重い展開を見込む。
	期末値	142	130	137	131	
ポンドドル	レンジ	1.05～1.25	1.05～1.25	1.05～1.25	1.00～1.20	コロナ規制が中国経済に下押しとなることや中国人民銀行による緩和姿勢から人民元は弱含み。一方、FRBの積極利上げ姿勢を受けたドル高が年末までつづく。来年は本格的な経済再開や米利上げ一服に伴うドル高一服でドル人民元は下落に転じる。
	期末値	1.15	1.15	1.15	1.10	
ポンド円	レンジ	140～170	135～170	130～165	125～160	豪中銀の利上げペースの減速や世界景気減速懸念の強まりで豪ドル円は徐々に下落へ
	期末値	155	150	150	138	
ドル人民元	レンジ	6.90～7.40	6.70～7.20	6.60～6.90	6.60～6.90	ファンダメンタルズや旅行需要回復から対ドル底堅く推移とみるが、円高地合いで対円では下落基調
	期末値	7.10	6.90	6.70	6.80	
人民元円	レンジ	18.0～20.5	17.5～20.0	17.0～19.5	18.2～20.3	
	期末値	19.7	19.5	18.7	19.4	
豪ドル円	レンジ	83～93	80～90	78～88	76～86	
	期末値	85	86	84	82	
タイバーツ円	レンジ	3.50～4.20	3.40～3.90	3.40～3.90	3.35～3.90	
	期末値	3.70	3.60	3.55	3.45	

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
12/1(木)	10年債入札 7-9月期法人企業統計調査	10月個人所得・消費支出 11月ISM製造業景況指数	(中) 11月製造業PMI
12/2(金)		11月雇用統計	
12/5(月)		10月製造業受注 11月ISM非製造業景況指数	
12/6(火)	10月家計調査 10月毎月勤労統計(速報) 30年債入札	10月貿易収支	(豪) 準備銀行理事会 (中) 11月貿易統計
12/7(水)			
12/8(木)	11月景気ウォッチャー調査 5年債入札 7-9月期GDP(二次速報値)		
12/9(金)		11月PPI	(中) 11月CPI
12/12(月)	11月企業物価指数	10年債入札 3年債入札	
12/13(火)		11月CPI 30年債入札	(独) 12月ZEW景気指数
12/14(水)	10月機械受注	FOMC(結果発表)	
12/15(木)	11月貿易統計 20年債入札	11月小売売上高 12月NY連銀製造業景況指数 12月フィラデルフィア連銀製造業景況指数	(英) BOE金融政策委員会 (欧) ECB定例理事会 (中) 11月生産・小売・投資
12/16(金)			

	日本	米国	その他
12/19(月)			(独) 12月IFO企業景況感指数
12/20(火)	黒田日銀総裁定例会見 日銀金融政策決定会合(結果発表)	11月住宅着工・許可件数	
12/21(水)		11月中古住宅販売 12月消費者信頼感指数 20年債入札	
12/22(木)		7-9月期GDP(確定値)	
12/23(金)	11月消費者物価指数 日銀金融政策決定会合議事要旨(10/27~28開催分)	11月個人所得・消費支出 11月新築住宅販売	
12/25(日)		(クリスマス)	
12/26(月)		(振替休日)	
12/27(火)	11月住宅着工件数 11月労働力調査 2年債入札	2年債入札	
12/28(水)	11月鉱工業生産	5年債入札	
12/29(木)		7年債入札	
12/30(金)			
12/31(土)			(中) 12月PMI



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年12月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【10/28~11/3】

◎ 中国10月の製造業PMI、2カ月ぶり節目割れ

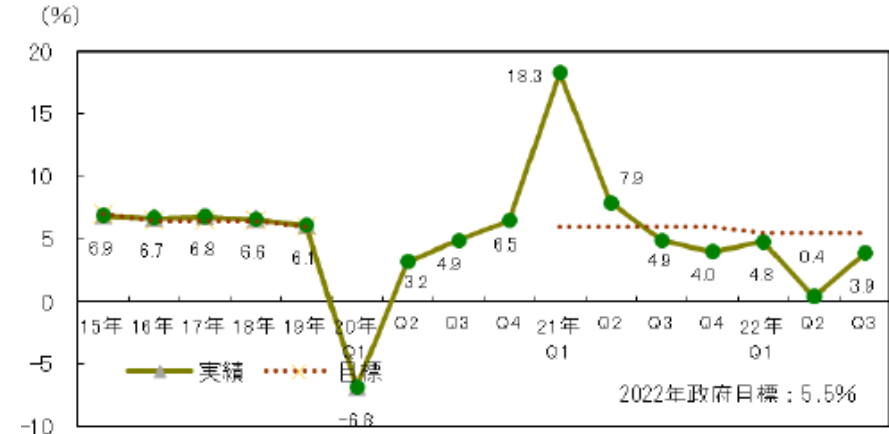
中国国家登記局と中国物流購買連合会は10月31日、22年10月の景況感を示す製造業購買担当者指数（PMI）が49.2だったと発表した。前月から0.9ポイント下落し、好不況を判断する節目の50を2カ月ぶりに下回った。50を上回ると生産や受注の拡大を、下回ると縮小を意味する。10月は生産、受注ともに落ち込んで、また雇用も0.7ポイント下落の48.3となった。統計局は新型コロナウイルス感染が国内各地で散発したことが影響したと説明し、「経済の回復基盤をより強化する必要がある」と指摘した。

【11/4~11/10】

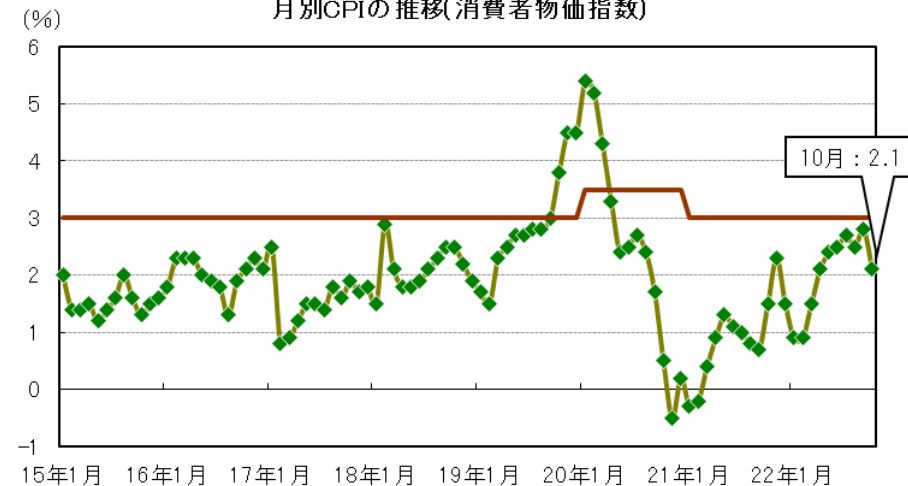
◎ 1~9月の経常黒字3,104億ドル、過去最高

中国国家外貨管理局が4日発表した2022年1~9月の国際収支統計（速報値）によると、海外とのモノやサービスの取引状況を示す経常収支は3,104億ドル（約45兆8,400億円）の黒字だった。同期の過去最高を記録した。資本・金融収支のうち、直接投資（FDI）は469億ドルの純流入。海外から中国への流入額は1,608億ドルとなった。中国から海外への流出は1,139億ドル。外貨管理局の王春英報道官は「中国経済の粘り強さと十分な潜在力は変わらず、長期的に経済が上向くファンダメンタルズは変わらない」と説明した。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年12月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【11/11～11/17】

◎ ダブル11（双十一）の総取引額、前年比13%増の1.15兆元

中国証券大手の招商証券によると、国内の全電子商取引サイト（EC）が今年のダブル11（11月11日までの数週間に行われるネット通販の販促イベント）に記録した取引額は計1兆1,507億元（約22兆7,500億円）だった。前年より13.4%増加した。招商証券のアナリストによると、今度ライブコマースなどの新しい業態がEC業界の成長を後押しするとし、ダブル11にまだ発展の余地があるとの見方を示した。ダブル11期間は実店舗の販売も伸びた。

【11/18～11/24】

◎ 中国地方の住宅でこ入れ相次ぐ

中国の地方政府が低迷する住宅市場のでこ入れに動いている。具体的には最低頭金比率の引き下げや購入条件の緩和など。従来以上に住宅を購入しやすくすることで、市民の住宅実需、買い替え需要を刺激する。8月にも住宅ローン金利の目安になる5年物以上の貸出基礎金利を0.15%引き下げ、4.3%に設定した。一層の市況回復に向けて、今後も規制が緩和に向かうとの見方が多い。これまで地方経済を支えてきた住宅市場を回復させることで、経済全体を押し上げたい考えだ。

主要経済指標

＜月次データ＞

項目	単位	2021/12	2022/1	2022/2	2022/3	2022/4	2022/5	2022/6	2022/7	2022/8	2022/9	2022/10
実質GDP成長率	%	4.0	-	-	4.8	-	-	0.4	-	-	3.9	-
消費者物価上昇率	%	1.5	0.9	0.9	1.5	2.1	2.1	2.5	2.7	2.5	2.8	2.1
都市部調査失業率	%	5.1	5.3	5.5	5.8	6.1	5.9	5.5	5.4	5.3	5.5	5.5
輸出額	10億ドル	339.7	326.6	216.8	275.1	272.3	306.0	328.1	331.8	314.4	322.7	298.4
輸入額	10億ドル	246.5	244.3	189.2	230.5	223.0	228.5	231.8	230.9	235.2	237.9	213.2
経常収支	100万ドル	317,301	-	-	88,875	-	-	166,373	-	-	310,373	-
外貨準備高	10億ドル	3,250.2	3,221.6	3,213.8	3,188.0	3,119.7	3,127.8	3,071.3	3,104.1	3,054.9	3,029.0	3,052.4
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	6.37	6.36	6.34	6.35	6.44	6.71	6.70	6.73	6.80	7.02	7.21

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○輸入博、見てみたい

11月上旬には上海である大きなイベントがあり、にぎやかでした。それは輸入博です。今年上海で輸入博を開催するのは5回目です。私は今回会場までは行ってないですが、テレビや新聞でみて、面白いと感じます。

今年、例年と違うのは、農作物生産専区の設置があり、また中国銀行の人工知能体験エリアもあり、最近中国で人気のあるメタバースの体験もできます。その他、文化物の出展もあり、斎白石や草間彌生など日中両国の大家の名作も展示されています。今回の輸入博は日本企業280社の出展もあり、食品、日常用品、医療機器・ヘルスケアなど大きな三つの分野の出展があります。その内、卓球ができるロボットが面白く、目を引きます。



ロボットは特別なセンサーカメラを通じて、選手の体やスイング動作をリアルタイムで入力して読み取り、即時に反応し、プロ選手と試合することができます。

科学技術の発展により、生活にいろんな変化をもたらしますね。今回の輸入博は上海や中国経済の発展の一助となればいいと思います。

○七輪を囲んでお茶

最近、ウェイチャットの友達のモーメンツを見ると、週末の新しい過ごし方が出てきます。友達と一緒に、お湯を沸かす七輪を囲み、おしゃべりをしながらお茶を飲んだり、写真を撮ったりするという事です。

ポカポカ陽気の午後に、公園等へ行って、テントを張り、また木製のテーブルの上に七輪を置き、網の上には急須を置き、急須の横には、落花生や柿、ナツメ、サツマイモ、栗といった季節の食べ物のほか、お菓子や果物などを器にきれいに盛り付けます。

なんだか伝統的な雰囲気漂っていますね。また数人の友達と一緒に七輪を囲んで、お菓子を食べながらおしゃべりをすると、携帯ばかり見ることから解放され、人々と面と向かって話すことができ、楽しい息抜きの時間になるに違いありません。

今年上海は長いロックダウンを経て、みんな自然と接触する時間が減少し、こういう露店や屋外でお茶を飲みながらの過ごし方も1つリラックスの方法でないかと思います。今週末、私もやってみたいですね。



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年12月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆タイ中央銀行の2022年9月の経済報告によれば、国内経済の回復が続いており、特に、民間消費指数は前年同月比11.3%上昇した。サービスの消費は外国人旅行者の急増で同29.1%と増加した他、非耐久消費財、耐久消費財、半耐久消費財のいずれも伸びた。民間投資指数は同7.7%上昇した。鉱工業生産指数は同3.4%上昇し、3カ月連続のプラス成長。自動車や石油製品等は2桁の伸び率だった。経常収支は623億米ドルと6カ月ぶりに黒字に回復した。

◆タイ商務省によると、2022年9月の輸出額は前年同月比7.8%増の249億1,930万米ドルと、前年同月比で19カ月連続のプラスとなった。2022年1～9月の輸出額は前年同期比10.6%増の2,213億6,610万米ドルだった。通貨バーツ安でタイ産品の国際競争力が高まったことが要因。農産物・加工品の輸出は前年同月比1.8%増、主要工業製品は同9.4%増。増加した工業製品は乗用車（同12.8%増）、商用車（同12.7%増）、バイク（同60.9%増）、コンピューター・同部品（同18.3%増）等。一方、減少した工業製品はゴム

手袋（同43.0%減）、プラスチック製品・粒（同12.7%減）等。国別では、米国向けの輸出額が前年同月比26.2%増の46億9,900万米ドルと最大。中国向けは同13.2%減の26億9,500万米ドルでこれに続いた。日本向けは同1.7%減の21億5,600万米ドル。他に、欧州連合（同18.0%増）、東南アジア諸国連合（同16.1%増）、中東（同47.5%増）、オーストラリア（同15.5%増）は増加したが、南アジア（同11.5%減）、アフリカ（同11.7%減）、ロシア（同24.5%減）は前月に続きマイナス成長。9月の輸入額は前年同月比15.6%増の257億7,250万米ドルで、貿易収支は8億5,320万米ドルの赤字となった。9月の対米ドル・バーツ相場は平均で1米ドル=37.03バーツで、前月の35.85バーツからバーツ安となった。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2021/12	2022/1	2022/2	2022/3	2022/4	2022/5	2022/6	2022/7	2022/8	2022/9	2022/10
実質GDP成長率	%	1.8	-	-	2.3	-	-	2.5	-	-	4.5	-
消費者物価上昇率	%	2.2	3.2	5.3	5.7	4.7	7.1	7.7	7.6	7.9	6.4	6.0
失業率	%	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	1.4	1.4	1.4	1.4	-
輸出額	100万ドル	25,419	21,259	23,483	28,860	23,521	25,509	26,553	23,629	23,633	24,919	-
輸入額	100万ドル	25,840	23,785	23,360	27,401	25,430	27,383	28,082	27,290	27,848	25,772	-
経常収支	100万ドル	-1,562	-2,541	-568	866	-2,087	-2,880	-3,126	-4,153	-3,492	623	-
外貨準備高	10億ドル	246.0	242.8	245.1	242.4	228.6	230.0	222.3	220.0	215.0	199.4	201.9
主要政策金利	%	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.75	1.00	1.00
対ドル為替レート	バーツ	33.6	33.2	32.7	33.3	33.8	34.4	35.0	36.4	35.9	37.0	37.9

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レボ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



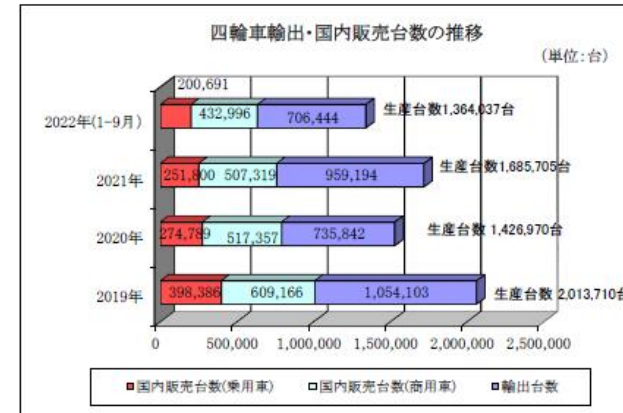
りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

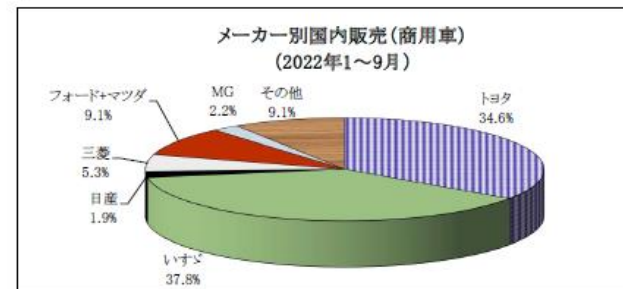
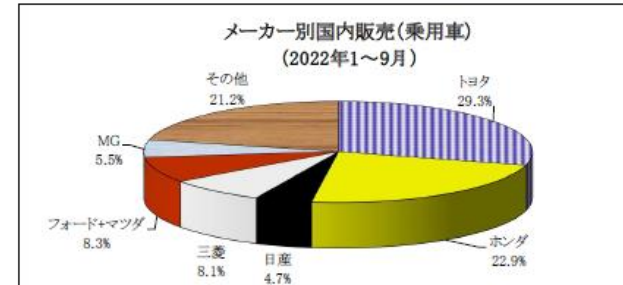
出所:タイ工業連盟(FTI)

		2019年	2020年	2021年	2022年 (1-9月)	前年同期比 (%)	9月
【台数】 (台)							
四輪	生産台数						
	乗用車	804,340	542,437	599,844	417,141	95.3	61,468
	商用車	1,209,370	884,533	1,085,861	946,896	122.3	117,769
	合計	2,013,710	1,426,970	1,685,705	1,364,037	112.5	179,237
	国内販売台数						
	乗用車	398,386	274,789	251,800	200,691	113.9	23,074
二輪	国内販売台数						
	商用車	609,166	517,357	507,319	432,996	121.7	51,076
	合計	1,007,552	792,146	759,119	633,687	119.1	74,150
	輸出台数	1,054,103	735,842	959,194	706,444	104.3	100,389
	生産台数	1,948,480	1,615,319	1,780,654	1,474,782	115.3	197,450
	国内販売台数	1,718,587	1,516,096	1,606,481	1,362,572	113.3	150,297
	輸出台数	948,839	727,152	965,967	762,202	105.8	92,659
【完成車輸出金額】 (百万バーツ)							
四輪		545,968	410,912	561,147	435,509	110.4	67,506
二輪		69,933	85,802	75,985	52,610	89.1	6,779



出所:トヨタ自動車

		2019年	シェア (%)	2020年	シェア (%)	2021年	シェア (%)	2022年 (1-9月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	9月
トヨタ	乗用車	117,708	29.5	68,152	24.8	62,403	24.8	58,777	136.4	29.3	7,382
	商用車	214,672	35.2	176,164	34.1	177,320	35.0	149,842	121.4	34.6	15,572
	合計	332,380	33.0	244,316	30.8	239,723	31.6	208,619	125.3	32.9	22,954
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	168,215	27.6	181,194	35.0	184,160	36.3	163,627	124.4	37.8	21,598
	合計	168,215	16.7	181,194	22.9	184,160	24.3	163,627	124.4	25.8	21,598
ホンダ	乗用車	96,154	24.1	77,419	28.2	76,886	30.5	45,987	86.1	22.9	5,961
	商用車	29,679	4.9	15,622	3.0	11,806	2.3	15,294	193.0	3.5	832
	合計	125,833	12.5	93,041	11.7	88,692	11.7	61,281	99.9	9.7	6,793
日産	乗用車	35,809	9.0	27,120	9.9	19,790	7.9	9,365	64.0	4.7	563
	商用車	28,605	4.7	17,438	3.4	9,906	2.0	8,116	119.1	1.9	1,042
	合計	64,414	6.4	44,558	5.6	29,696	3.9	17,481	81.5	2.8	1,605
三菱	乗用車	38,879	9.8	22,363	8.1	18,456	7.3	16,355	129.7	8.1	1,793
	商用車	49,365	8.1	35,046	6.8	28,732	5.7	22,955	113.0	5.3	2,079
	合計	88,244	8.8	57,409	7.2	47,188	6.2	39,310	119.4	6.2	3,872
その他	乗用車	109,836	27.6	79,735	29.0	74,265	29.5	70,207	134.0	35.0	7,375
	商用車	118,630	19.5	91,893	17.7	95,395	18.7	73,162	111.3	16.9	9,953
	合計	228,466	22.7	171,628	21.8	169,660	22.3	143,369	121.4	22.6	17,328
合計	乗用車	398,386	100.0	274,789	100.0	251,800	100.0	200,691	113.9	100.0	23,074
	商用車	609,166	100.0	517,357	100.0	507,319	100.0	432,996	121.7	100.0	51,076
	合計	1,007,552	100.0	792,146	100.0	759,119	100.0	633,687	119.1	100.0	74,150



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。